

片岸地区まちづくり協議会 議事要旨

記

- 日時 平成 27 年 3 月 4 日（水）18 時 30 分～20 時 00 分
- 場所 市役所第 4 庁舎 3 階第 7 会議室
- 次第
 1. 釜石市市長挨拶
 2. 工事進捗状況及びスケジュールについて
 3. 復興公営住宅について
 4. 宅地整備基準（案）について
 5. 公開試験盛土の開催について
 6. 産業道路整備事業及び雨水排水整備事業について
 7. JR 東日本との協議箇所について
 8. 片岸海岸防潮堤及び鶴住居川水門について
 9. 吉里吉里釜石線について
 10. 意見交換会

説明を受けて工事工程が変わってきたことは了解したが、工事工程に変更があった要因は何か。

→ 当初は、国道沿いの諸施設を仮移転させてからの施工を予定していましたが、仮移転について同意を得られず、工程を入れ替えることになりました。

復興公営住宅予定地部分が 1 年遅れることについては了解したが、当初の計画が甘かったのか。

→ 工事を進めながら協議をしている部分もあり、交渉で時間を要してしまいました。

現実的に片岸に住めないという人が出てきている。二転三転するので見通しが立てられない。もう変更はないということでよいか。

→ 想定していないことが起きることは打ち消せないが、合意形成の面ではかなり了解は取れているので、今後交渉に時間を要することはないと思われます。

ラグビーワールドカップの開催が決まったが、このことで遅れることがないようにしてもらいたい。

住宅再建が遅れることがないように調整を図りながら進めていきたいと思えます。

皆が望んでいた戸建の災害公営住宅が一番遅れている。全体的な遅れについてはやむを得ないが、これ以上遅れることがないように重々考えて欲しい。県の集合住宅については障害物がないので早く着工して欲しい。ふるさとに戻りたいが戻れないという人がこれ以上増えないようにして欲しい。

→ 県営住宅について、県と市が情報交換を密に進めながら遅れることがないように努力していきます。

戸建の災害公営住宅は15戸ではなかったか。

→ 19区画用意し、実際の申し込みは16戸となっています。

大槌は2階建てと聞いている。釜石は当初から平屋建てということであるが、家族が住むのを考えて2階建てはできないのか。

→ 敷地が確保できる以上、バリアフリー等の観点から平屋建てが住みやすく望ましいと考えています。

歩道に面する区画について、切り下げ部の間口は4mと示されたが、国道からの出入りは大変な状況。事故も危惧されるので、原則ということであれば国道部は再度調整したい。

関連して、国道で4mの間口が適切なのか。もう少し広げられないのか。

関連して、1宅地1箇所とのこと。車専用の出入り口以外の出入り口（人）が必要ではないか。状況に応じて対応して欲しい。24条申請は大変でお金がかかる。

→ 本日晒したのはあくまでも原則です。道路に面した敷地全体の利用状況を勘案する必要があると考えています。道路管理者別にも考えていく必要があり、今後、個別に協議しながら進めていきたいと思えます。

マサ土は締め固め直後はいいが、長い年月の間に水を吸ってゆるくならないか。仮置土を見てもマサ土のみ法面が流れている。以前の説明では流れないようにすると言っていたが大丈夫なのか。

→ マサ土は、当然締め固めを行えば水を吸うことはないですが、仮置分については締め固めを行っておりません。また法面は岩ズリで被覆します。なお名古屋から西はマサ土による造成が多く、品質面における問題はありません。

長い年月の間に雨でゆるくならないかが心配。

→ 公開試験盛土のときに20年経った事例を紹介しています。

数百年もつのか。

関連して、試験盛土はわずかな人しか行っていない。そのこと自体は効果があったと思う。仕事で関西に行っていたが関西はマサ土で造成している。擁壁は 30cm で必ずセットして欲しい。釜石の地盤はしっかりしている。その上にマサ土で盛土する。しっかりと転圧するのであれば大丈夫だとは思っている。

関連して、NHK の報道で、気仙沼（鹿折）では造成後時間を置いてから建築工事であった。

→ 擁壁について 50cm という話もあったが、釜石では 30cm とし、マサ土が露出する部分を少なくしました。密度をしっかり保てれば大丈夫と図書にも示されています。

マサ土にこだわって聞くと、片岸は全てマサ土でいくのか。他の材料は使わないのか。植栽に向くのか。

→ 多方面から提供いただいている土の多くはマサ土のため、大部分はマサ土でかさ上げします。ただし、表面は 10cm 程度の岩ズリを敷均します。法面の植栽についてですが、マサ土そのものは植生に向いていないのは確かです。釜石では 30cm の擁壁でカバーしていくことにしています。

家を建てる段階で、建物保証制度で地盤データを出さないといけない。各宅地の地盤強度は出してもらえるのか。

→ 面積毎に地耐力を測り示すことで考えています。家を建てるときにはメーカーが改めて調査することがあると思います。

産業道路については確定か。

→ 設計段階であり、複数ルートを検討しています。

県道にすりつける部分について、多重防御の意味も含めてある程度高くして欲しい。地元の要望も有る。是非、地元の声に掛けながら進めて欲しい。

→ 設計を確定前に皆さんに提示し、しっかり議論しながら進めていきたいと思えます。

→ 防潮堤を乗り越える道路にすりつけているので、高さは確保されます。

大体の計画が固まったら、本設計に入る前に地元の声に掛けて欲しい。

→ 了解しました。

今回 JR 東日本が復旧工事を行った後に三陸鉄道に移管されるわけだが、鶴住居川を渡ったあたりから軌道上げることはできないのか。近年大雨が降ったとき危ないと感じたことがあった。恋の峠の軌道をディーゼル機関車で上れないこともあった。軌道上げることにより勾配がゆるくなるメリットもある。大雨のときに危険な状態になることを JR に伝える必要があるのではないか。

関連して、7/4に着工するという報道もあった。せっかく工事をするのであれば地元の声を反映するようにはしていただきたい。市の要請でだめな場合でも地元からの要請であれば通る場合もある。

→ お話にありましたが、まちづくりとの関係も有ります。地元で負担してもらえるのかという話もあります。危なそうだからといって変更するのは難しいです。鶴住居川の渡行部は岩手県とも協議をしながら、また一定のルールもあるので、ルールの範囲内でリスクを見極めながら協議を進めていきたいと思えます。

多重防御という話をすれば、地元負担という話になる。多重防御という話はこちらからは出さず、結果的にかさ上げにつながるようにして欲しい。鶴住居川は 300mm の雨でスレスレの状況になる。せっかくのチャンスを活かして欲しい。是非、JR にお願いして欲しい

→ 3月に宮古で着工式があるので、宮古側はある程度固まっているようです。釜石側はこれからなので、ある程度要望の余地はあると思えますが、現時点ではダメだという話になっているので、再度要望していこうと思っています。RWC の開催で遅れるという話がありましたが、期限内に終わらないと RWC は開催できません。被災地ということで全世界に注目されているので期待に応えなければならない責務があります。早まることはあっても遅れることはないです。遅れるのであれば早めに情報提供という話がありました。工事の遅れについて、何故なのかと言われましたが、合意が得られれば、こうなるという説明をこれまでしてきました。合意が得られず、進められない状況になると遅れるという説明になります。合意が得られた次の課題は何か、事業者の皆さんと協議しているところです。ポンプ車が足りないという話もあります。次に何の障害があるかはある程度予想はつけられますが、予想がつかないこともありその都度遅れる可能性があります。現時点で考える障害は排除しながら進めていきたいと思えます。明日、業者も交えた会議があります。その中で何か支障があれば明らかになります。いずれにせよ、27年度からはより一層スケジュール管理をしっかりしていきたいと思えます。産業道路の話もありましたが、新たな事項が出れば地元にも相談していきたいと思えます。

いろいろ検討された結果、2方向で排水処理する方向が示されたと理解している。ひとつは元の水門のほうへ、もうひとつは水門の内側へ放流するという計画と理解している。片岸は元来自然勾配がとれず、苦勞してきた経緯がある。沈下もあり、自然勾配確保は苦勞されていると思う。今後、色々課題が出てくると思うが、急いで考えながら技術的課題は詰めて頂きたい。もうひとつの課題は遊水地の課題がある。安心できる内容にさせていただき早く説明いただきたい。

関連して、予定している都市公園が見えてこない。今話しが出た遊水地を都市公園に盛り込むのか。着工式が行われた防潮堤の前に砂浜が広がってきている。集会施設の建設場所も決まっていない。

関連して、地元としての課題もあるのでじっくりやりましょう。片岸には農業を続けなければいけない人がいる。どこに集約するかが見えてこない。大きな課題なので真剣に考えてもらいたい。

→ 重々承知しています。現時点ではやむを得ずこうなっていますが、ご理解をいただきながら理想の形に進めていきたいと思えます。色々な課題についてはこれから解決していきたいと考えています。

防潮堤工事スケジュールは31年3月で完成と考えていいか。

→ 契約工期として31年3月となっていますが、防潮ラインが整うのは29年度末を目指しており、撤去工事などの残工事が30年度末まで残る形です。

津波仕様と高潮仕様があるらしいが、どちらで整備するのか

→ 今回は津波仕様です。